

Q 一年中、鼻炎の症状がある

52歳、女性。1年前の春先から、鼻水・くしゃみ・鼻づまりの症状が始まり、花粉症になったと思いました。ところがその後も四季を通じて鼻炎の症状があり、今は市販の薬でしのいでいます。受診した場合、どのような検査や治療が行われるのでしょうか。（福島県O）



● 回答者 ●

笠井耳鼻咽喉科クリニック
自由が丘診療室（東京都）
笠井 創

A 季節性と通年性の鼻アレルギーを合併している可能性が。検査でアレルゲンの特定を

くしゃみ、鼻水、鼻づまりといった鼻の症状を引き起こすアレルギー性鼻炎には、年間を通して症状の出る通年性のものと、特定の季節に限って症状のおきる季節性のものがあります。

季節に関係なく一年中アレルギーの症状が出る場合に、原因としてもっとも多いのは室内のホコリ（ハウスダスト）やダニ、ペットの毛、カビなどです。一方、一定の季節のみに症状が出る季節性鼻アレルギーの原因は、春のスギやヒノキ、夏のカモガヤ、秋のブタクサなどで、一般的に花粉症と呼ばれています。

季節性アレルギー性鼻炎の方のなかには、ハウスダストやダニに対する過敏症を示す方もいます。花粉症のシーズンが過ぎても症状が出る方は、季節性と通年性の両方の鼻アレルギーの合併を疑う必要があります。

アレルギー性鼻炎の原因は、血液を採取して、スギやハウスダストなど疑われる物質に対する特定の抗体が血液中にどのくらいあるかを調べることで簡単に判明しますので、一度検査を受けられてはいかがでしょうか。そのほか、皮膚テストなどが行われることもあります（表参照）。

なかには検査で原因が特定できない場合もあります。これは血管運動性鼻炎と呼ばれ、温度変化に過敏で、季節の変わりめに症状が出やすい病気です。アレルギー性鼻炎と血管運動性鼻炎やかぜからおきる鼻炎を区別するのは難しいことがありますが、鼻水を採取して中に白血球の一種の好酸球が観察できると、鼻の粘膜でアレルギー反応がおきている証拠になります。

● アレルギー性鼻炎の検査の主な流れ

◆ 問診

年齢、性別、職業、症状の程度、発症年齢、好発期、合併症、アレルギー既存歴、家族歴、過去・現在の治療歴や経過など。



◆ 鼻鏡検査

鼻粘膜の状態を調べる。慢性のアレルギー性鼻炎では腫れて青白くなっていることが多く、スギ花粉症では赤くなっている場合がある。



◆ アレルギーの有無を調べる検査

- 鼻汁好酸球検査……好酸球の有無を調べる。
- 血液中好酸球検査・血液中総IgE値……花粉症単独例では正常値のことが多く、高値は通年性アレルギー性鼻炎が多い。



◆ アレルゲンを特定する検査

- 特異的IgE抗体定量……血液中にスギやヒノキ、ハウスダストなどの物質に対して特定の抗体がどのくらいあるか調べる。
- 皮膚テスト、鼻粘膜誘発反応……皮膚や鼻粘膜に花粉などを乗せるなどして反応・症状が出るか調べる。

※このほか、さらに詳しい検査が行われこともある。

2005年版「鼻アレルギー診療ガイドライン」より一部改変

アレルギー性鼻炎の予防と治療は、原因物質の除去と薬による治療が中心です。鼻アレルギーの症状をおこさないようにするには、まず原因となる物質をできるだけ排除することです。

花粉が原因なら、マスクやゴーグルなどで花粉が体内に入らないようにします。ホコリやダニが原因の場合は、まめに室内の掃除をします。それでも症状が治まらなければ、内服薬や点鼻薬による薬物での治療が必要です。